

# 庄内農家の友

Vol.981 / R5.12.1

2023  
12  
December

全農  
もっと近くに

URL <https://www.zennoh-yamagata.or.jp/>  
E-mail: [sysmail@yt.zennoh.or.jp](mailto:sysmail@yt.zennoh.or.jp)



表紙写真コンクール入選 福を呼ぶ大黒舞 齋藤 正毅さん (三川町押切新田)

## Contents

- 稲作 P2-3 山形県産米の更なるブランド確立に向けて! ~米穀情勢および県産米の販売状況について~
- 園芸 P4-5 いちご期待の新品種「山形S7号」を紹介します! ~商品収量が多く外観が優れる四季成り性いちご「山形S7号」の育成~
- 経営 P6-7 令和6年4月 いよいよ東北農林専門職大学開学!

JA全農山形

食の都  
庄内

## 2024米づくりフォーラム in 庄内

~令和5年の高温少雨の経験から学ぶこと~

### 1 目的

庄内地域は、国内有数の米どころとして、長年、高品質・安定生産に取組み、消費者・実需者の信頼を築いてきました。

しかし、令和5年夏の気象は、これまでに経験したことのない高温少雨が続き、山形県農業に大きな影響をもたらしました。稲作では、特に、玄米品質への影響（白未熟粒の発生）が大きく、落等の要因となりました。

そこで、この経験を踏まえて、米どころ産地としてどう取組むか、生産者と関係者が令和5年の気象を振り返り、稲作へ与えた影響と対策を見出すとともに、引き続き次世代を担うブランド米産地として高品質・安定生産の維持を図るため、標記フォーラムを開催します。

### 2 日時 令和6年1月10日(水) 13:30~16:00

### 3 場所 いろり火の里 文化館なの花ホール 多目的ホール (三川町大字横山字堤172-1 電話: 0235-66-4863)

### 4 内容

13:30	開会
13:35 ~13:55	山形おいしさ極める!米づくりプロジェクト庄内地域本部食味コンクール 表彰式(つや姫の部、雪若丸の部、はえぬきの部)
会場準備(5分)	
14:00 ~ 15:00	演題:「地球温暖化と日本のコメ生産への影響」 講師:国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境研究部門 気候変動適応策研究領域 作物影響評価・適応グループ グループ長 酒井 英光 氏
休息(5分)	
15:05 ~ 15:45	現地報告:「令和5年産米の作柄解析と影響緩和の事例紹介」 ・農業総合研究センター水田農業研究所 【作柄解析】 ・庄内総合支庁農業技術普及課・酒田農業技術普及課 【事例紹介】
会場準備(5分)	
15:50 ~16:00	情報提供:「農業セーフティネットについて」 山形県収入保険加入推進協議会
16:00	閉会

### 5 参集範囲 庄内地域米生産者(つや姫認定生産者、雪若丸登録生産組織等) 庄内地域関係機関・団体(JA、市町、土地改良区、JA全農山形等) 約200名

### 6 主催 山形おいしさ極める!米づくりプロジェクト庄内地域本部 山形「つや姫」「雪若丸」ブランド化戦略推進本部庄内地域本部 庄内地域つや姫マイスターの会 {(事務局)庄内総合支庁産業経済部農業技術普及課・酒田農業技術普及課 全国農業協同組合連合会山形県本部米穀庄内推進室}

### 7 参加申込 令和5年12月18日(月)まで最寄のJAまたは普及課にお申し込みください。

発行所/全国農業協同組合連合会 山形県本部 (JA全農山形)  
〒990-0042 山形県山形市七日町三丁目1番10号 TEL023-634-8133  
発行人/長谷川 直秀 印刷所/庄内農村工業農業協同組合連合会

県名	品種	1等米比率 (%)		
		5年産	4年産	前年差
山形県	つや姫	63.0	99.2	▲35.2
山形県	雪若丸	91.1	98.1	▲7.0
山形県	はえぬき	43.2	96.2	▲53.0
山形県 平均		54.7	96.4	▲41.7
北海道	ゆめぴりか	86.8	97.0	▲10.2
青森県	青天の霹靂	55.8	94.7	▲38.9
秋田県	あきたこまち	61.8	93.0	▲31.2
宮城県	ひとめぼれ	87.4	97.7	▲10.3
新潟県	コシヒカリ	3.6	80.2	▲76.6
全国 平均		59.6	75.8	▲16.2

表3.令和5年産米の農産物検査結果(9月30日 農水省)

「雪若丸」今年で本格デビュー6年目を迎える「雪若丸」は、人気俳優を起用したCM効果

「つや姫」今年でデビュー14年目を迎えます。生産者の皆様のためまぬ努力のおかげで、全国有数のトップブランド米として、その地位を確立しております。

「はえぬき」はブレンド特性に優れ、「炊き増え率」「味度値」「食味値」が高く、大手コンビニ、回転寿司、駅弁等の業務用としても広くご採用いただいております。

山形県産米の主要銘柄である「はえぬき」「つや姫」「雪若丸」の状況については、以下のとおりです。「はえぬき」

山形県内においても同様の影響を受け、県全体としての1等米比率も41・7%下落しました。県内主要銘柄として「つや姫」36・2%下落、「雪若丸」7・0%下落、「はえぬき」53・0%下落となり、主な落等理由としては高温障害による白未熟粒が要因となりました。

「はえぬき」はブレンド特性に優れ、「炊き増え率」「味度値」「食味値」が高く、大手コンビニ、回転寿司、駅弁等の業務用としても広くご採用いただいております。

「つや姫」は、今年でデビュー14年目を迎えます。生産者の皆様のためまぬ努力のおかげで、全国有数のトップブランド米として、その地位を確立しております。

「雪若丸」の更なる知名度向上・ブランド確立をはかってまいります。



写真1.つや姫レディの販促風景

# 山形県産米の更なるブランド確立に向けて!

## ～米穀情勢および県産米の販売状況について～

JA全農山形 消費地販売部総合販売課 宗田亮輔

### 米穀情勢

1. 令和5年産米の作柄概況について(表1)  
9月25日現在の水稲の作柄は、北海道、関東が作況102、104の「やや良」、東北、東海、近畿、中国、四国、九州、沖縄が作況99、101の「平年並み」、北陸が97の「やや不良」となっております。全国の10aあたりの予想収量は534kg(前年産▲2kg)と見込まれており、作況指数は100の「平年並み」となっております。

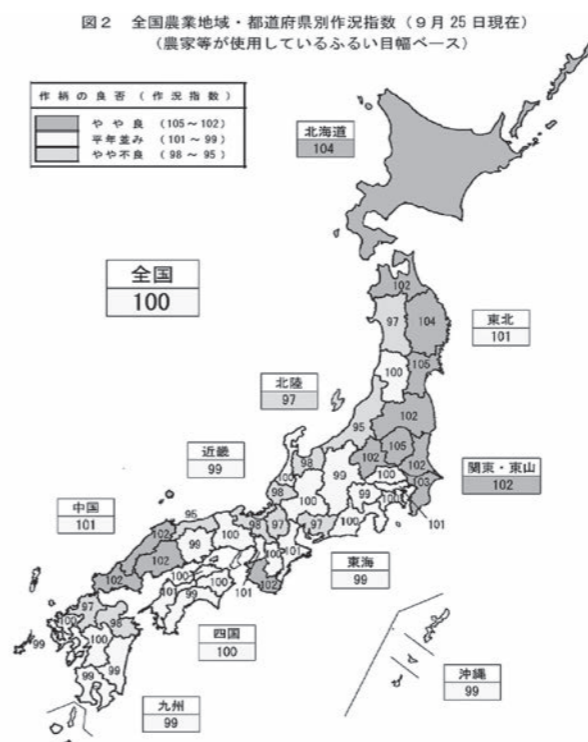


表1.令和5年産作柄概況(9月25日現在、農水省)

作付面積は6万7400ha(前年産▲500ha)、うち主食用作付面積は5万2400haで、前年産に比べ300ha減少が見込まれます。また、水稲の10aあたり予想収量は589kg(前年産▲5kg)と見込まれます。全もみ数が平年に比べ「やや少ない」となったものの、登熟はおおむね順調に推移したため、山形県全体としては作況指数「100」の「平年並み」と見込まれます。

2. 需給見通しについて(表2)  
令和5年6月末の民間在庫数量は197万ト(確定値)であり、在庫数量の適正水準と言われる180万ト(200万トの範囲内)にあります。令和4年6月末の218万トと過剰な在庫量に対し、需給環境は大幅に改善されております。

	項目	算式	量
R5/6年	5年6月末民間在庫量	A	197
	5年産主食用米等生産量	B	662
	供給量計	C=A+B	859
	需要量	D	682
	6年6月末民間在庫量	E=C-D	177
R6/7年	6年産主食用米等生産量	F	669
	供給量計	G=E+F	847
	需要量	H	671
	7年6月末民間在庫量	I=G-H	176

注. ラウンドの関係で加減が一致しない箇所がある。

表2.今後の需給見通し(10月19日食糧部会)

令和5年7月から8月にかけて全国各地で記録的な猛暑となり、降水量は平年の半分に満たない地域が多くなりました。一部の地域で、高温と渇水がイネの生育に影響し、白未熟粒などが例年に比べて多く発生しております。このことから全国の1等米比率は大幅に低下する結果となりました。

3. 5年産米の品質について(表3)  
令和5年7月から8月にかけて全国各地で記録的な猛暑となり、降水量は平年の半分に満たない地域が多くなりました。一部の地域で、高温と渇水がイネの生育に影響し、白未熟粒などが例年に比べて多く発生しております。このことから全国の1等米比率は大幅に低下する結果となりました。

表1. 草姿・草勢および果実形質<sup>z)</sup> (R2、R3庄内産地研究室)

品種	開花始期(R3/5/24)		果形 <sup>y)</sup>			果形	果皮色	果肉色	果心の色	そう果の落ち込み	光沢	空洞
	草姿	草勢	たて(mm)	よこ(mm)	たて/よこ							
山形S7号	立性	やや強	41.1	36.8	1.12	円錐形	橙赤	淡桃	淡赤	中	中	無又は小
サマーティアラ	立性	やや強	40.0	33.3	1.20	円錐形	赤	赤	赤	小	中	中

<sup>z)</sup> 農林水産省いちご属審査基準に基づき判断 <sup>y)</sup> たて:へた基部から先端の長さ よこ:最も幅が広い部分の長さ 第1花房の2,3番果調査

表2. 果実品質(R3、R4庄内産地研究室)

年次	品種名	硬度 <sup>z)</sup> (kg/3mmφ)						糖度 <sup>y)</sup> (°Brix)	酸度 <sup>x)</sup> (%)	糖酸比
		6月	7月	8月	9月	10月	11月			
R4	山形S7号	0.30	0.32	0.32	0.35	0.29	0.29	7.6	0.78	9.7
	サマーティアラ	0.29	0.19	0.27	0.27	0.24	0.29	8.6	0.85	10.1
R3	山形S7号	0.30	0.32	0.40	0.40	0.39	0.35	7.3	0.75	9.8
	サマーティアラ	0.23	0.28	0.31	0.38	0.39	0.41	8.5	0.83	10.2

<sup>z)</sup> 藤原果実硬度計KM-1 (針頭:円筒形、3mm径、10mm高) で測定 <sup>y)</sup> ATAGO PR-101で測定、6~11月の平均値 <sup>x)</sup> 滴定酸度クエン酸換算値 (採取果汁1ml、0.1N-NaOH (1ml=0.0064gクエン酸) で滴定)、6~11月の平均値

当室ではさらなる高品質安定生産を図るため、「山形S7号」の新作型開発に向けて、高設ベンチ栽培における適正な養液濃度、花房数・着果数調整による初秋以降の収量性の把握、苗増殖の方法の確立を目指し、

#### 4 今後の展開

収穫は、6月から可能で、11月下旬までの10a換算商品収量は4・3tであり、「サマーティアラ」の10a換算商品収量である3・2tを大きく上回ります(図4、表4)。障害果の発生は、種浮果や鶏冠果が少なく、商品収量が高いことが特徴です(表3、4)。

表3. 障害果の発生割合(R3、R4庄内産地研究室)

年次	品種名	鶏冠果 (%)	種浮果 (%)	受精不良果 (%)	先詰果 (%)	先白果 (%)	その他 <sup>z)</sup> (%)
R4	山形S7号	0.4	0.1	5.8	0.0	0.3	0.9
	サマーティアラ	4.6	7.7	6.0	0.3	1.0	0.3
R3	山形S7号	0.7	0.1	5.0	0.3	0.1	0.0
	サマーティアラ	5.8	11.9	5.1	0.1	0.7	0.5

\*株当たり総収穫個数に対する株当たり個数割合 <sup>z)</sup> 病害虫被害果、みぞ果等

表4. 商品収量(R3、R4庄内産地研究室)

年次	品種名	定植日(月日)	収穫開始日(月日)	収穫終了日(月日)	商品収量 <sup>y)</sup>						10a換算商品収量(t/10a)	平均1果重(g)	
					6月(g/株)	7月(g/株)	8月(g/株)	9月(g/株)	10月(g/株)	11月(g/株)			合計(g/株)
R4	山形S7号(花房管理) <sup>z)</sup>				83	167	140	154	140	89	774	4.5	11.8
	山形S7号	3/22	6/8	11/22	86	181	157	51	180	82	737	4.3	11.1
	サマーティアラ				71	130	90	71	85	99	548	3.2	12.4
R3	山形S7号	3/23	6/3	11/29	133	122	71	91	98	52	566	3.3	11.8
	サマーティアラ				92	83	6	79	62	37	360	2.1	12.2

<sup>z)</sup> 株当たり花房数を3本、1花房当たり果実数を3果に制限した(6/27~8/23) <sup>y)</sup> 「サマーティアラ」出荷規格で区分した秀品(果形が良く整ったもの7g以上28g未満)及び丸秀品(鶏冠果の軽微なものを含む) <sup>x)</sup> 給液EC: R3は0.3~0.6dS/m、R4は9/25までは0.3~0.6dS/m、9/26以降は1.0dS/m、10/13以降は1.3dS/mで管理した。 <sup>z)</sup> クラウン冷却: R3はクラウン冷却実施せず、R4は6/21~9/20までクラウン冷却を実施した。

# いちご期待の新品種「山形S7号」を紹介します!

## ~商品収量が多く外観が優れる 四季成り性いちご「山形S7号」の育成~

庄内総合支庁 農業技術普及課産地研究室 乙坂息吹

**1 はじめに**  
当室では、いちごの生産が難しい夏期高温期にも、安定した収量や品質が期待できる四季成り性いちご品種を育成する研究を行っており、今回、当室で育成した山形県オリジナルいちご新品種「山形S7号」が令和5年10月に出版公表されましたので、育成に至る背景と特徴について紹介します。

**2 「山形S7号」の育成経過**  
**(1) 背景**  
国内のいちご生産は、大部分が冬春期(11~5月)にかけて出荷する作型であり、夏秋期(6~10月)は特に少なく、夏秋期は冬春期に比べて単価が高く、販売上、大きなメリットがあります。当室では、平成14年から四季成り性いちごの育成に取り組んでおり、平成23年に本県初のオリジナル四季成り性いちご新品種である「サマーティアラ」を品種登録



図1. 「山形S7号」の草姿

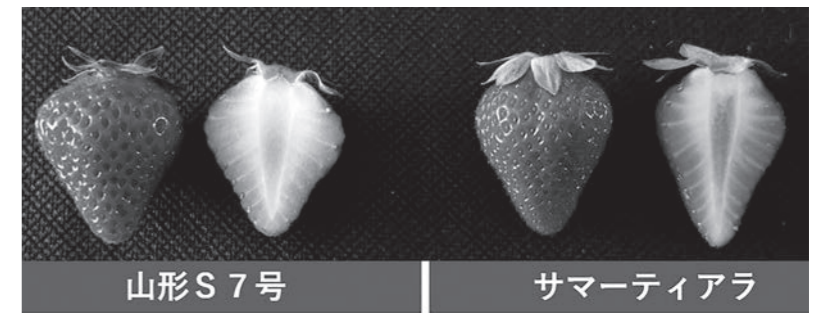


図2. 「山形S7号」と「サマーティアラ」の果実形質

**(2) 育成経過**  
新たな育種目標として、収量性が高く、うどんこ病や炭疽病に強いこと、耐暑性に優れ、種浮果、鶏冠果が少なく、日持ち性が優れることを設定しました。「山形S7号」は、平成24年度に「サマーティアラ」を子房親に「なつじろう」(地方独立行政法人北海道立総合研究機構育成)を花粉親にして交配し、選抜、特性把握、炭疽病簡易検定まで6年、その後、奨励品種決定調査の基本調査2年と現地試験3年を経て、品種登録出願しました。交配から品種登録出願に至るまで慎重に調査を重ね、11年の歳月を費やしました。(令和5年10月

**3 「山形S7号」の特徴**  
出願公表)  
草姿は立性で、草勢はやや強いです(図1、表1)。果実形質は、果形が栽培期間全体を通し円錐形であることから、見た目がいちごらしい円錐の形をしています(図2、表1)。果皮色と

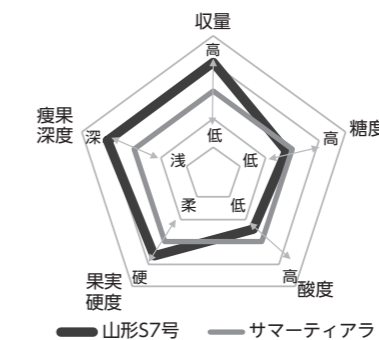


図3. 「サマーティアラ」を基準3とした場合の「山形S7号」の収量と果実形質

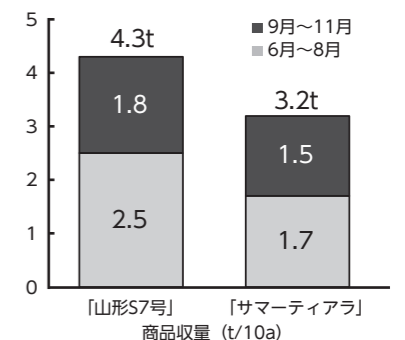


図4. 「山形S7号」と「サマーティアラ」の収量の比較

# 令和6年4月 いよいよ 東北農林専門職大学開学!

山形県農林水産部 専門職大学整備推進課 古野伸典

本誌の昨年12月号で紹介した「東北農林専門職大学」が、本年9月4日付で設置が認可され、いよいよ来年4月に開学することとなりました。東北農林専門職大学の特徴や、施設の整備内容などを紹介します。

## ①東北農林専門職大学の特徴

刻々と変化する国際情勢や消費者ニーズの多様化など、農林業を取り巻く情勢は大きく変化しています。これらの時代の変化に対応した経営戦略を構築できる農林業人材の育成と、農業現場に貢献する研究等に取り組みするため、県では東北農林専門職大学を設置することとしました。

本学は、農林業経営学部（1学部）に、農業経営学科（入学定員32名）と森林業経営学科（入学定員8名）の2学科体制となっており、将来の山形、東北、ひいては日本をけん引する農林業経営者の育成を目指しています。

## ②既存学校との違い

図1は、東北農林専門職

大学と、既存大学農学部、山形県立農林大学校の違いを一覧表でまとめたものです。

県では、農林業のスペシャリストの養成のため、2年制の専修学校である山形県立農林大学校を設置しています。農林大学校では、県の技術職員が教員となり、生産技術の習得を目的とした充実した実習が行えることなどが特徴です。また、農林大学校は全寮制であることも特徴の一つです。なお、農林大学校は、専門職大学開学後も、附属学校として定員を40名として存続します。

既存大学は、教養教育に加えて、学術重視の専門教育を行うため、教員は、研究者教員のみで構成されています。これらの大学の農学部では、農業生産に加え、教養科目を学び専門理論を幅広く探求する教育を行っ

図1. 東北農林専門職大学、既存大学農学部、山形県立農林大学校の比較

	東北農林専門職大学	既存大学農学部	山形県立農林大学校
学校の種類	大学	大学	専修学校
修学期間	4年間	4年間	2年間
教員の構成	大学教員 (研究者、実務家)	大学教員 (研究者)	県の技術職員 (普及指導員等)
取得学位 (称号)	学士(専門職)	学士	専門士(称号)
住まい	アパート等	アパート等	寮(全寮制)
教育の特徴	理論と実践をつなげるハイブリッドなカリキュラムで ・高度な生産技術 ・高度な経営理論が身につく	農林業生産に加え、教養科目・専門理論を幅広く探求する	生産技術の習得を目的とした充実した実習と座学で ・高度な生産技術 ・基礎的な経営理論が身につく

ていることが特徴です。これらに対して、東北農林専門職大学では、文部科学省の基準を満たす大学教員である研究者教員と実務家教員※が理論と実践をつなげるハイブリッドな教育を行います(※専門分野において5年以上の実務経験を有する者であり、生産技

術の開発や品種改良等の実績を有する者)。また、専門職大学生用の学生寮は整備せず、アパート等から通学するため、地域と交流しながら大学生活を送ることが期待されます。なお、農林大学校を卒業すると「専門士」の称号が付与されますが、専門職大学

を卒業すると、既存の大学卒業時に取得できる「学士」と同じく国際通用性のある「学士(専門職)」の学位を取得できます。

## ③新築の大学校舎

東北農林専門職大学の校舎は、現在の農林大学校校舎の東側で建設工事が進められており、今年12月に完成する予定です(図2)。校舎は、鉄骨造2階建の交流棟と、鉄筋コンクリート造4階建の教育・研究棟で構成されています。交流棟の



図2. 完成間近の新校舎(令和5年10月30日現在)



図3. 大講義室の施工状況

1階部分は学生食堂、2階部分は附属図書館となっています。学生食堂、附属図書館ともに、広く県民の皆様からも利用いただけますので、近くにお越しの際は是非お立ち寄りください。また、交流棟の西側は、三百人程度を収容できる大講義室となっています。大講義室の壁は、東京オリピック・パラリンピックの選手村ビレッジプラザで利用された県産木材が使われています(図3)。大講義室は、

入学式、卒業式だけでなく、公開シンポジウム等で利用する予定としています。

## ④充実した附属施設

東北農林専門職大学は、授業時間の3分の1以上が実習やフィールドワークとなつていきます。この実習や農林業者を対象とした研修会等に利用するため、学内圃場内に4つのデジタル実装研究・研修拠点を整備しました。

### (1)気候変動対応型農業研究・研修センター

果樹の凍霜害など、近年激甚化する気候変動に対応した技術の開発と普及を目的に、ICT技術や、GIS技術を駆使した研究や研修を行うための施設です。NTT東日本グループと締結した連携協定に沿った果樹の凍霜害に関する研究・研修にも取り組む計画です。

### (2)スマート農業研究・研修センター

ドローンで収集したデータの解析、園芸用施設のモ

ニタリング技術の開発とそれらを活用した技術普及を目的に整備した施設です。自動操舵トラクタの実証やICT技術を活用した育苗に関する研修などに取り組む計画です。

### (3)スマート畜産研究・研修センター

ICT技術を利用した肉用牛の発情・体調監視システムや、分娩監視システム等の実証とデジタル技術を利用した新しい牛体内のモニタリング技術の開発を目的に整備した施設です。地元企業と連携した肉用牛の体調監視システムの共同研究にも取り組む計画です。

### (4)スマート森林業研究・研修センター

レーザー測量等で集積したデータの解析、ドローンによる森林データの集積及び解析の実証と技術開発を目的に整備した施設です。ICT技術を活用した森林経営計画の作成や作業道の敷設計画等に関する研究・研修に取り組む予定です。これら4つの施設には、光

回線を敷設して通信環境を整備するなど、最新のデジタル技術が研究・研修できるようにしています。

## ⑤地方創生に向けて

東北農林専門職大学の設置意義の一つとして、「人材育成及び研究開発を担い、東北創生の拠点となる」ことを掲げています。入学してくる学生の教育・人材育成はもとより、山形、東北の農林業に貢献する研究開発にも取り組み、地方創生のけん引役となるように尽力してまいりますので、庄内地域の農業関係者の皆様からは、引き続き、御支援・御協力いただけますようお願い申し上げます。

東北農林専門職大学の最新情報につきましては、左記QRコードの大学ホームページで公開しておりますので、是非、ご覧ください。

